

山口・津和野のおいしい情報お届けします。

彩都山口

Sight Yamaguchi



vol.5

とっておきの山口、
教えちゃいます。



Kazuaki Hirakawa



Kazuaki Saeki



Kazuaki Harada



Osamu Watanabe



Masakazu Koyama

CONTENTS

■巻頭特集

フェイク・クリーム・アートで

「幸せの記憶」を呼び起こすスイーツ王子・渡辺おさむ

■山口のまち歩き。アート・イベントもやっています。

「アートふる山口」と「山口アーツ&クラフツ」

■アートって楽しい!!

～山口情報芸術センター[YCAM]のEDUCATION事業～

■やまぐちのつくりびと

■～これが私の故里だ～中原中也記念館

■神様も、演者も観客も一緒に楽しむ石見神楽

■めざせ!ぽっかぽか女ツアー!



本物そっくりのフルーツやクリームなどを使ってお菓子のようなデコレーションを行う「フェイク・クリーム・アート」の第一人者、渡辺おさむ氏。
その作品は多くの人々から「カワイイ」と評され、誰をも笑顔にしてくれます。
山口県出身の渡辺さんに、山口県では初の開催となった
山口情報芸術センター「YCAM」などでの作品展に当たって、
「アート」に寄せられる思いを語っていただきました。

フェイク・クリーム・アートで 「幸せの記憶」を呼び起こす スイーツ王子・渡辺おさむ



「フェイク・クリーム・アート」は、モデリング・ベーストやFRP（※注）などを使って本物そっくりのスイーツを制作し、オブジェとして造形したり、場所やモノに装飾を施すという新しい分野のアートです。ケーキやマカロン、チョコレートなどとそっくりな作品は「キレイ」「カワイイ」「オイシイ」と身近なアートとして人気を集めています。
渡辺おさむさんはこの「フェイク・クリーム・アート」界をリードする人気作家として、国内外で作品を発表、テレビ番組などにも多数出演して「現代アート界のスイーツ王子」と注目されています。

●本物そっくりのフルーツやクリーム、マカロンといったフェイクスイーツでデコレーションされた作品はカラフルで、お菓子の甘さまで伝わってくるようです。

▲「食べられるの？」と聞かれることも多く、「食べ物ではなく、アートなんです」と説明すると驚かれますが、最近はお存じの方も増えてきましたね。

Fake Cream Art

Osamu Watanabe



彩都山口 vol.5
CONTENTS

■巻頭特集
フェイク・クリーム・アートで「幸せの記憶」を呼び起こす
スイーツ王子・渡辺おさむ p.1

■特集1
山口のまち歩き。
アート・イベントもやっています。
p.5
「アートふる山口」と
「山口アーツ&クラフツ」

■特集2
アートって楽しい!!
～山口情報芸術センター
[YCAM]の教育普及事業～ p.9

■特集3
やまぐちのつくりびと
～それぞれのカタチ～ p.13

■イラストMAP p.18

■中原中也記念館
～これが私の故里だ～ p.20

■津和野 information
神様も、演者も観客も
一緒に楽しむ石見神楽 p.22

■山口市の観光の魅力
山大生がナビゲート!!
めざせ♪ぽっかぽか女ツアー!
p.24

□TOPICS&ふるさとやまぐち
寄付金のご案内 p.28
□プレゼントクイズ 編集後記
p.29

「彩都山口」のweb版は、
こちらから。
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>

彩都山口 検索



「皆さんに身近にスイーツ・デコ作品に触れていただきたい」と、「日本のクリスマスは山口から」のイベント期間中、市内3カ所のカフェにも小作品を展示。それぞれの店の雰囲気に合わせて作品と展示スペースを選び、注目を集めた。



●渡辺さんの作品ファンが確実に増えているからでしょう。2012年は大原美術館(岡山県)や清洲市はるひ美術館(愛知県)での大規模な企画展も大盛況だったそうですね。今回は、山口県内では初の作品展の開催とか。

▲はい。山口県内で作品展を行うのは初めてです。これまで国内各地や海外、いわばアウェイ(笑)活動してきましたが、県内の市町では今回初めて山口市から作品展のお誘いをいただき、とてもうれしかったですね。皆さんに温かく迎え入れていただき、故郷の有り難さを実感しました。

●そもそもフェイク・クリーム・アートを制作しようと思われたきっかけは？

▲美術大学に在学中に自分なりの表現を考えたい際、幼い頃に母がお菓子の先生をしていてお菓子が常に身近にあったことを思い出し、これをモチーフにした作品制作を始めました。

●作品はどれもスイーツそっくりで、思わず目を凝らして見入ってしまいます。

▲近寄って細かなデコレーションを見ていただきたいですね。モデリング・ペーストで表現したクリームの集合美・躍動感・生命感を生かして制作していきたいと思っています。

●今回は「日本のクリスマスは山口から」のイベントに「スイーツデコ・プロジェクトin山口」と銘打って参加されたわけですが。

▲室町時代に大内氏が山口に宣教師サビエルを迎え入れたことやサビエル記念聖堂がよく知っていましたが、日本初のクリスマスが山口で祝われたことは今回初めて知りました。山口が文化に寛容だという史実を伝えるには

もってこのエピソードですし、世界中の人々に知っていただきたいですね。私もそのPRに少しでも協力できればと思っています。

●プロジェクトとしては、山口情報芸術センター(YCAM)、山口宇部空港、山口市内3軒のカフェに作品を展示され、ワークショップも開催されています。盛りだくさんな展開ですね？

▲故郷でいろいろ披露したくて、展示作品はそれぞれ違ったタイプのものにしました。

●YCAMのスタジオに展示された「渡辺おさむの侘び寂びの世界」karsansui「枯山水」は、雪舟庭で有名な常栄寺(山口市)にある南渓庭をモチーフにされたそうですが？

▲今回山口での作品発表にそなえて市内あちこちを巡ってみました。最も制作意欲をそそられたのが南渓庭でした。雪舟庭は観光客に



常栄寺雪舟庭にて。

もおなじみですが、重森三玲氏が作った南渓庭もすばらしい石庭です。その美しい曲線のラインをクリームのデコレーションで表現し、アーティストとして尊敬している重森三玲氏へのオマージュも込めて制作しました。

●国宝・瑠璃光寺五重塔の近くにある洞春寺の中庭も、重森氏のお弟子さんが作ったということでご覧になったそうですね？

▲通常は公開されていないのですが、特別に見せていただきました。長方形のコンパクトな空間にモダンなデザインの庭があって、やはり重森三玲氏の作庭に通じるものを感じ、すばらしかったです。

●重森三玲氏の作庭の魅力は、日本古来の作庭の歴史を踏まえつつもアバンギャルドな表現をしている点です。伝統を尊重しながら、自らの新しい表現に挑戦している姿勢にも共鳴しますし、何よりモダンでフォルムが美しいところにひかれています。

●「カワイイ」以外の、フェイク・クリーム・アートの魅力とは？

▲「幸せの記憶」を思い起こさせることでしょうか。お菓子というテーマは世界共通。どの国のどの年代の人にとっても、お菓子は幸せの記憶と結びついています。誰にでもあるお菓子にまつわる幸せな記憶を思い起こしてもらえそうな作品を作っていきたいですね。

●見る者に幸せを届ける…って、アートの重要な役割ですね？

▲ええ、今回カフェに展示したように、暮らしの中で気軽にアートを飾っていたら、と思います。あと、作品を観て「食べたくなった」という声もよく聞けるので、やはり食欲に訴えかける作品なのかな、とも思います。

●今回のようにワークショップを開催されるのは、そつした意図もあってのことですか？

▲そうですね、フェイク・スイーツ・アートに関心のある方には、実際に作ってみてより身近に感じていただきたいし、子どもたちへのアートの教育普及もできる範囲でお手伝いしていければと思っています。

●新たな発想とか気分転換のために、観たり触れたりするものがありますか？

▲リフレッシュには、自然に浸るのが一番ですね。どんな作品も自然の美しさにはかなわないものです。山口市内ならたとえば一の坂川周辺は、桜・ホタル・落ち葉…と四季折々に楽しめます。カフェで一休みするのもいいですね。山口に来たら、豊かな自然をできるだけ心に取り込んで帰りたい…と思います。



●よく知られているものに新しい表現を融合させる挑戦…という点では、渡辺さんが2007年から続けておられる「世界遺産にデコレーションプロジェクト」と共通しますね。

▲おなじみのモノや風景にデコレーションを加えることによって、概念がガラリと変わった。距離感がぐっと縮まったりするとおもしろい…と思っています。世界遺産だと変化がすぐわかるし、クリームが世界各地へ旅をしていく感じもいかなと思っています。

●山口宇部空港の展示作品からもそうした意気込みが伝わってきます。

▲「日本のクリスマスは山口から」イベントを盛り上げられればと、秋芳洞の百枚皿にロダンの「考える人」7体を配置する…というシュールな光景を作ってみました。空港なので、クリスマスシーズンに山口に到着された方々をびっくりさせてお迎えしよう…。

●反響が楽しみです。日本ではカラフルでポップな作品を観て「カワイイ」と言う人が多いのですが、作者としてはいかがですか？

▲「カワイイ」という日本語は欧米などでそのまま通じる。現代日本人独特の感性、概念といえるでしょう。「カワイイ」という定義で作品を展開しても世界的に受け入れられますし、それはうれしいことです。



山口宇部空港の到着ロビー、手荷物受け取りターンテーブル中央の「百枚皿」に、ロダン「考える人」7体を設置。

常栄寺・南渓庭にて。重森三玲氏の作庭の心に思いを馳せる。

常栄寺
所 山口市宮野下2001
☎ 083-922-2272
休 年中無休
■拝観時間
[4~9月] 8:00~17:00 (入園は16:30まで)
[10~3月] 8:00~16:30 (入園は16:00まで)
■拝観料
大人300円、中・高200円、小学生100円
P 有



山口の まち歩き。

アートをもっと
楽しもう!

アート・
イベントも
やっています!

大内文化の名残りとどめる古都・山口には数々の史跡が点在し、豊かな自然にも恵まれて、観光地としての魅力がいっぱい。そして四季折々、さまざまなお祭りやイベントも開催されています。まち歩きの際にちょっと、のぞいてみませんか？毎年恒例のアート・イベントを2つご紹介しましょう。



ワークショップでは各テーブルを回って直接指導。「これくらいの人数だと皆さんの声を直接聴け、私も勉強になります」と渡辺氏。



●山口市では今回の作品展のような市民の皆さんにアートを身近に感じていただけたら、イベントをYCAMなどで催していますが、「アートは難しい」と思い込んでいる人もいると思うのですが…

▲まずはさまざまなモノを見ることだと思います。昨年に山口県美展を見ましたが、大賞をはじめ、とんがった作品が多く、振れ幅も大きくて、楽しませていただきました。現代アートもまずは近くで観てみると興味もわき、好きな作品も見つけられて、楽しくなるものです。その点、情報と芸術の発信基地YCAMがある山口市は恵まれていますね。気軽にアートと触れ合えるわけです。

●今後はどんな活動を予定されていますか？

▲ファッション誌や広告制作にも参加していますし、本物のケーキのデザインなどもやっています。クリームが増殖していくように作品発表の場を広げていくためには、まず多くの方々に作品を観ていただくことが大事です。あちこちでフェイク・クリーム・アートを身近に感じてもらう、「幸せの記憶」を呼び起こしていきたいですね。

穏やかな語り口はまさに「スイーツ王子」の渡辺さんですが、制作への意欲はひたむきで骨太。何より、「見る人に幸せを届けたい」という情熱が伝わってきました。

国内外での作品展示や広告とのコラボレーションなど、忙しいスケジュールを抱えながらも、「ご縁があれば山口でもいろいろ発表していきたい」「たとえば湯田温泉駅前のゆう太にデコ・とか」と、故郷への温かい思いも。フェイク・クリーム・アート界のトップランナーとして現代アートの一翼を担う渡辺おさむさんの、さらなる活躍が期待されます。

「渡辺おさむ的侘び寂びの世界 ~Karesansui 枯山水~」は、映像やBGMも融合させて展示。



PROFILE
わたなべ・おさむ。山口県出身。東京造形大学卒業。本物そっくりに作ったクリームやフルーツなどのフェイク・フードを駆使して、スイーツデコ作品を制作。世界の名画や観光地スポットにもフェイク・スイーツで装飾を施し、国内はもとより海外でも注目を集めている。TV番組、雑誌などでも取り上げられ、アート界のスイーツ王子として人気上昇中。2012年は大規模な企画展を大原美術館(岡山県)、清州市はるひ美術館(愛知県)で開催、初の作品集「SWEET OR UNSWEET?」も出版。



2013年の開催日は4月以降に決定の予定です。
詳しくは、ホームページ
(<http://www.y-ac.net/>)でご確認ください。

遊びに来てね、いいモノを見つけよう 山口アーツ&クラフツ

クラフトとは、素材の性質を踏まえ、手仕事の良さを反映した実用性のある優れたデザイン的生活工芸品のこと。木工、皮革、布織物、陶器、ガラス、彫金等、素材はさまざま、一つひとつの作品には作家の思いがこもっています。「アーツ&クラフツ」というイベント名には、そんなクラフトを日常生活に応える芸術として提案していく...という願いが託されています。スローガンは「ミルミルミセル」。まずは会場をぶらりと見て、気になる作家や作品を見つけたらじっくり観て、最後には作品と作家に魅せられてほしい...というわけです。

全国から集まった作家の開放感ある出展ブースが100以上連なった光景は、壮観。しかも公園の芝生や木々の緑に囲まれ、山口ならではの自然の息吹も満喫しながら、作品選びブース巡りを楽しめます。

山口市では「お気に入り」のモノに囲まれて心地良く暮らしたい...という生活こだわり派を満足させるイベントも毎年開催されています。

「山口アーツ&クラフツ」は、山口情報芸術センター「YCAM」前の山口市中央公園に全国から1000名以上のクラフト作家が集い、アートの匂いのするクラフトを展示即売するイベント。2006年から毎年秋に開催され、市民はもちろん県内外からも毎年多くの人々が訪れています。



イイモノにこだわると作品、それぞれに出会える

各ブースを巡り、心ひかれる作品「あつたらステキ」と思えるクラフトを見つけたら、作家に声をかけ、作り手の思いや創作エピソードにも耳を傾けてみましょう。やりとりには関西弁や九州弁も混じり、事前審査で選ばれた出展作家たちが全国各地からやって来ていることがわかります。そして来場者の方も県内外からの常連さんが少なくありません。また、前年度出展者の中から厳選された招待作家によるテーマ展示や、誰でもクラフト創作を体験できるワークショップも開催されています。

「アーツ&クラフツ」は、イイモノにこだわると作品をそれぞれに、ここ山口で出会えるイベントなのです。

7回目を迎え、さらにワクワク

第7回目となった2012年は全国各地から129人の作家を迎えて10月27日(土)、28日(日)に開催されました。それぞれのブースに並べられた作品は、インテリア小物やアクセサリー、食器、ユニークな楽器など、実にバラエティ豊か。いずれもアート感覚いっぱいのおリジナル作品です。ディスプレイやお客さんとの会話からも、各作家の個性とこのイベントにかける意欲が伝わってきます。

「全国から集まった作品が一堂に会する貴重な場。作家にとっても、お客さんと直接触れ合え、他の作家から刺激がもらえる絶好のチャンスです」と、実行委員長の佐伯和章さん。会場中央の木立



も、お客さんと直接触れ合え、他の作家から刺激がもらえる絶好のチャンスです」と、実行委員長の佐伯和章さん。会場中央の木立



●お問い合わせ先
YAC実行委員会事務局 (nagomi style内)
☎083-923-5533
URL <http://www.y-ac.net/>



2013年は
10月13日(日)・14日(祝)
に開催予定です。

降るような幸福感に満たされる アートふる山口

「西の京」と呼ばれる山口のまちの中でもひととき風情豊かなのが一の坂川・竈小路の一带です。一の坂川は室町時代に大内弘世が京に模した町づくりを行った際、鴨川に見立てたという川。春は桜、初夏にはゲンジボタルの乱舞が楽しめる情緒あふれるせせらぎです。近くには、国宝・瑠璃光寺五重塔や龍福寺など大内氏の栄華を伝える史跡があり、山口観光のメインスポットになっています。また、一の坂川に平行して伸びる竈小路では、奥行きが深い造りの町屋や、格子が残された古民家など懐かしいまち並みと出会えます。

そんな歴史と自然が解けた山口のまち歩きに、さらなるお楽しみをプラスしてくれるのが秋の恒例イベント「アートふる山口」です。市民参加型のイベントとして1996年から毎年開催され、2012年には17回目を迎えました。



訪ね歩いて楽しむ「小さな美術館」

「アートふる山口」の中心は、「小さな美術館」。一帯の民家やお店がそれぞれ2日間だけの小さな美術館に変身し、代々伝わる「わが家のお宝」の書や絵画、工芸品などを展示しています。中には創作意欲あふれる人たちが自作を展示している家もあり、川沿いや通りをそぞろ歩けば、「古きよきもの」と「新たな作品」の両方に出会うことができます。



「どうぞご覧になってください」と温かい声に迎えられる、「これは何?」「大正期のものですよ」などと地元の人と会話を交わすのもこのイベントならではの楽しみ。ボランティアの実行委員会が企画・運営する参加型イベントだけあって、どの場所もどの人も和やかな雰囲気です。「来てもらうこと、見てもらうことが、うれしい」という地元の人たちの幸福感が緩やかに伝わってきて、訪ねた人の心まで温かくしてくれます。

世代を越えて共有する「幸せな時間」

2012年10月6日(土)、7日(日)に開催された「第17回アートふる山口」でも、老若男女、さまざまな人々が楽しんでいました。総合案内所が置かれたクリエイティブスペース赤れんがでは、アジアからの留学生が着物の着付け体験に大はしゃぎ。着付けてあげた店の人も、近くにいる人力車の車夫さん



も、その様子を優しく見守っていました。一の坂川の中央、鴻東橋や龍福寺・大内氏館跡、十朋亭といった観光ポイントでは、高校生ガイドが懸命に説明。世代を越えてイベントを支えようという意欲

が伝わってきました。史都・山口のたたずまいを味わいながら、創作熱を秘めたアートな品々と出会い、人々の温かさに触れる「アートふる山口」。まち歩きとともに、楽しんでみませんか?



●お問い合わせ先
アートふる山口実行委員会事務局 (大路ロビー内)
☎083-920-9220 ☎10:00~17:00 休 火曜
URL <http://www.artful.jp/>

アートって楽しい!!

身近に感じ、あなた自身も表現体験できます!

～山口情報芸術センター[YCAM]の教育普及事業～



山口市中心部、中央公園の緑に面して建つ山口情報芸術センター[YCAM]は、アートと気軽に触れ合い、さまざまな体験が楽しめる場です。展示スペース、劇場、ミニシアター等での芸術観賞に加え、来場者自身がメディアテクノロジーを使った表現を行える教育プログラムも充実。ぜひ立ち寄って、先進のアート体験を味わってみましょう。

2012年5月～8月に開催された「glitchGROUND」展に設置されたコロガル公園

“西の京 山口”を彩る art & culture 関連イベント

大内文化特定地域に指定されている豎小路や一の坂川一帯のエリアでは、ご紹介した「アートふる山口」以外にも四季折々に“アート&カルチャー”関連のイベントがいろいろと催されています。気ままにのんびり、歩いて巡ってみませんか。

春

山口お宝展

[3月上旬～4月上旬]

大内氏ゆかりのお宝や明治維新にまつわるお宝など普段あまり見ることができない「山口のお宝」20～30点が一堂に公開されます。無料のガイドツアーなどもありますのでご利用を。

📍 大内・白石エリアと瀬田温泉エリア
📍 山口お宝展実行委員会(山口商工会議所内)
☎ 083-925-2300



通年

C・S赤れんが

旧県立山口図書館の書庫が市民の保存・再生活動により、「いろいろのあるまちづくりを担うアートスペースを山口に」と1992年に「クリエイティブ・スペース赤れんが」として生まれ変わりました。美術展、コンサート、演劇、シンポジウムなど芸術・文化関連の催し物が年間を通して開催されています。

📍 山口市中河原町5-12 ☎ 083-928-6666
🕒 月曜(祝祭日の場合は翌日)・祝日の翌日(土・日を除く)・年末年始
🌐 <http://www.akarenga.justhpbs.jp/>



夏

山口祇園祭

[7月20日～27日]

山口に夏の到来を告げる祭。八坂神社で「鶯の舞」が奉納され、裸坊による御幸、御還幸が練り歩きます。また、大内のお殿様の調べにのせて市内の事業所や団体による総踊りが催されます。

📍 八坂神社、豎小路、山口市中心商店街ほか
📍 八坂神社社務所
☎ 083-922-0083

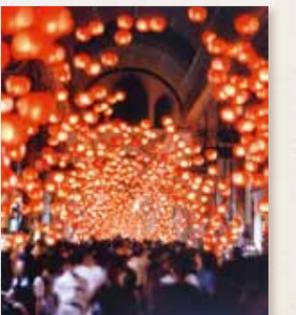


山口七夕ちょうちんまつり

[8月6日・7日]

約600年前から続く伝統のまつり。竹にさげられた紅ちょうちんがトンネルのように連なり、山口の夜の街を紅く染め抜きます。日本三大火まつりの一つにも数えられる山口の夏の風物詩です。

📍 山口市中心商店街、パークロードほか
📍 山口市ふるさとまつり実行委員会(山口商工会議所内)
☎ 083-925-2300



秋

山口ゆらめき回廊

[9月中旬]

国宝瑠璃光寺五重塔がある香山公園の散策道に約1,000個のキャンドルライトが灯されます。キャンドルライトの灯入れやコンサートなどのイベントも開催。ほのかな灯りの中、幻想的な雰囲気につつまれながら秋の夜長の五重塔観賞はいかがでしょう。

📍 瑠璃光寺五重塔・香山公園
📍 山口市観光課
☎ 083-934-2810



冬

日本のクリスマスは山口から

[12月]

1552年、山口で日本初のクリスマス祝うミサが行われたことにちなんで開催されるイベント。日本のクリスマス発祥の地としてクリスマスシーズンの12月、約1ヶ月にわたってさまざまなイベントが行われます。

📍 中心商店街ほか市内各所
📍 日本のクリスマスは山口から実行委員会(山口商工会議所内)
☎ 083-925-2300





●お問い合わせ先
山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL083-901-2222
URL <http://www.ycam.jp/>

■開館時間 / 10:00 ~ 20:00
※夜間イベントのある日は22時まで開館
■休館日 / 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
■交通アクセス
・JR新山口駅から徒歩約30分。情報芸術センター前下車すぐ
・JR湯田温泉駅、JR山口駅から徒歩約25分、タクシー5分



■ケータイ・スパイ大作戦
携帯電話のカメラ機能を使った鬼ごっこのルール作りを通して、ネットワーク社会におけるマナーやルールを学ぶ。ディスカッションしながら、安全で公平なルールをつくりあげていく。

■コトバ身体
人の体の動きをコンピュータに取り込み、自分の思いついた「言葉=コトバ」と組み合わせていくワークショップ。言葉のチョイスによって動きの見え方が変わったり、言葉によって動きが生み出されたりする。



■Eye2Eye
目で見るだけでなくコンピュータを操作できる「視線入力技術」を使ったワークショップ。多くの人と1つの画面を見ると、他の人がどこを見ているかが分かる。視線の持つ不思議さや味あえる。



■感覚アスレチック
空間に張り巡らされたゴムをよけながら体を動かして自分の体がどうやって動くのかじっくり確認していく。他の人の体の動きを観察するとまるでダンスの振り付けのようにも見える。



■パスタ建築
パスタを用いた構造体を制作。シンプルなルールに従って制作するだけで、複雑でユニークな作品が完成。

あなたに合ったスタイルで参加を!

この他にも2011、2012年はメディアテクノロジを用いたモノづくりをサポートする「teecpot」(テックポット)※が連続開催され、子どもからお年寄りまで、幅広い年代層が参加しました。また、映画を批評的・分析的に観て感想を語るトレーニングになる「映画を2回観る会」も2012年には3回開催されています。

YCAMの教育普及プログラムは、来場者の興味や都合に合わせて、さまざまなスタイルで参加できるよう、多彩なチャンネルを用意されています。初めての人はまずギャラリーツアーや「teecpot」(テックポット)のような単発のプログラムへ参加してみてください。もう少し体験や学びを深めたいなら、長期ワークショップへ。2012年には、館内向けラジオ番組制作・放送する「Library Radio」や、本や写真を制作するシリーズなども用意されていました。いずれも取り組みの成果を放送や印刷物にして公開する仕組み。さらに本格的に関わりたいたら活動や運営をお手伝いするサポートスタッフとして登録することもできます。

「自由度の高い作品を観ること、読み解くことは楽しいことですよ...と、広く伝えていきたいですね」と主任エデュケーターの会田大也さん。

YCAMにおける教育とは、知識のコピーではなく、メディアへのトライなのです。そのオリジナルワークショップは海外からも評価され、アジア各地からは誘致の声もあがっています。あなたもぜひ、体験してみてくださいませんか?

各教育普及プログラムには、市民以外の方も気軽に参加できます。内容については上記ホームページでご確認ください(※注1)コガル公園や「teecpot」(テックポット)は常設の開催ではありません。ワークショップの体験を希望される方は、事前にYCAMまでお問い合わせの上、随時お申し込みください。

気軽に展示や映画を観賞。 ガラス、表現体験“も楽しめる!”

YCAMの館内には展示スペース、劇場、ミニシアター等があり、市立中央図書館を併設する複合文化施設として2003年11月に開館しました。

各スペースでは、斬新で楽しい作品展示やコンサート、映画上映、アートやメディアテクノロジを体験・体感できるワークショップなど、さまざまなイベントが開催されています。託児サービスやキッズスペース、カフェも完備し、お子さま連れでも安心。心に栄養、生活にアートな刺激をチャージしたいとき、ちよつと立ち寄ってみませんか?

情報芸術の創造・発信拠点を目指すYCAMでは、メディアテクノロジを用いた新しい表現の教育普及活動に力を入れており、中でもオリジナルワークショップは注目的です。2012年には4種のオリジナルワークショップが「第6回キッズデザイン賞」の最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。

YCAMのオリジナルワークショップ って、どんなもの?

たとえば2012年春に行われた教育普及展「greetch GROUND(グリーッチグラウンド)」では、8種のオリジナルワークショップが開催されました。その内容は、パスタを用いて簡単な構造体を作る「パスタ建築」、携帯のカメラ機能を使った鬼ごっこ「ケータイ・スパイ大作戦」、体の動きをコンピュータに取り込み、思いついた言葉と組み合わせる「コトバ身体」など、楽しくて斬新なものばかり。参加者はメディアをぐつと身近に感じるようになったはず。



■コガル公園
床が波のようにうねっている「コガル公園」。光や音、インターネットなどに関するさまざまな道具が埋め込まれていて、子どもたちの自由な発想力によって新しい遊びが生まれる場となる。



■walking around Surround
オリジナルのワイヤレススピーカーを使って、音を時間軸と空間に組み立てていくワークショップ。画面手前にある黒い箱がスピーカーで、目を閉じて音を聞き、普段意識しない「音の間こえ方」「空間の鳴り方」について再発見する。

やまぐちのつくりびと

それぞれのカタチ



2009年に山口市が創設した「やまぐち新進アーティスト大賞」「やまぐちACS賞 (The Artist of Citizens Selection)」*。

この2つの賞には、将来が囑望される若手のアーティストたちの芸術活動を広く一般に知らしめ、山口市はもちろんのこと市民や地域も一緒になって、若手アーティストたちの活動を支え、大切に育てていこうという思いが込められています。

今回はその受賞作家の中から、山口市内にアトリエと店舗を構える4人を訪ね、その個性溢れる世界をのぞいてみました。美しさ、力強さ、繊細さ、楽しさ、可愛らしさ…ゆるぎのない信念をカタチにして見せる“やまぐちのつくりびと”たち。みなさんも気軽に足を運んで、その魅力に触れてみませんか。

*山口市の画家であった故田口克己氏の寄付金を基に創設された賞。将来一層の活躍が期待される山口市のアーティストに贈られる。創作活動を奨励し、発表の機会の提供もしている。



「アートと環境の未来・山口」

「YCAM 10周年記念祭」

■第一期 2013年7月6日(土)～9月1日(日)

■第二期 2013年11月1日(金)～12月1日(日)

入場無料

一部公演・イベントは除く

※一部作品は2014年3月23日(日)まで展示しています。



アーティストディレクター
坂本龍一氏

2013年11月に開館10周年を迎える山口情報芸術センター[YCAM]では、「アートと環境の未来・山口 YCAM10周年記念祭」を開催します。開催期間を二つに分け、多彩な展覧会やイベント、アーティストディレクター坂本龍一氏の新作を含むオリジナル作品の展示を、館内及び市内各所で展開。テーマは「アート」「環境」「ライフ」。進化し続けるアートセンターYCAMの10周年記念祭をどうぞご期待ください。



掲載の情報は、2013年2月現在のものです。イベントの期間等は予告なく変更となる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認の上、ご来場ください。



作り手、贈り手、使い手、 それぞれの思いを つなぐ。

彫金作家
佐伯 和章 さん (38歳)
Saeki Kazuaki



ドライラント(南天)と
真ちゅうを組み合わせた作品。
静かな存在感を放っている。



KO SILVER
〒山口市道場門前2-4-24
☎083-921-5553
🕒11:00~19:00
🚶なし
[URL] <http://ameblo.jp/kosilver950/>

作品づくりに集中するため、常に平常心を保つように心掛けているという佐伯さん。その人柄は、端正な作品に反映されています。

Information
彫金教室 ※要予約
シンプルなリングの製作
を体験!
●日時:毎月第2・4の
月・土曜/各回13:00~
●所要時間:約3時間
●定員:各回4名
●料金:一般5,000円、
学生4,500円
(材料費込み)



シマコクタンとシルバーを組み合わせた個
性的な作品。一つひとつ表情の違いを楽し
めるのは手作りならではの。



オリジナルのほか、希望や予算に応じたオー
ダーメイドも可能。



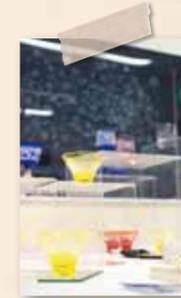
作品のテーマは、虫や植物など、身近な自然
が中心。



たくさんの出会いによって カタチを変えていく表現。

サンドブラスト作家
小山 祐和 さん (49歳)
Koyama Masakazu

小山さんの繊細な
手仕事による
サンドブラスト作品



サンドブラスト工房 るり・あーと
〒山口市小郡下郷1403-10
(山銀大正町支店正面)
☎083-972-1407
🕒10:00~18:00
🚶日曜・祝日
[URL] <http://www.ruriart.com/>

取材中、その技法を惜しむことなく教えてくれた小山さん。作品はもちろん、オープンで気さくな人柄も魅力。

Information
サンドブラスト教室
お皿やコップの
模様付けを体験!
所要時間:1時間程度
料金:1作品1,000円~
ガラスフュージング教室
ガラスの箸置きやアークセ
サリーづくりを体験!
所要時間:1時間程度
料金:1作品1,000円~



2012年12月に行われた、市の主催による展
覧会「ひきだし展」。



デニムの表面にサンドブラスト加工を施し
た立体感のある作品。



「第4回やまぐちACS賞」受賞作品。後左よ
りガラススタンド「春」、ペーパーウエイト
「桜」、ガラスの箸置き「春」。

昔懐かしい昭和の風情を残すJR新山口駅近くの
大正通りの一角。ここに、かつて空き店舗だったス
ペースを利用してサンドブラストの工房を構えるのが
小山さんです。サンドブラストとは、圧縮空気で砂を
吹き付けて表面を削り、文字や絵を表現する技法のこ
と。ガラスのほか、木や石、金属、革、デニムなど、さま
ざまな素材に加工ができます。中でも、小山さんを全
国的に有名にしたのがデニムへのサンドブラスト。デ
ニム表面のブルー地を削り取り、見事なグラデーション
で、複雑な絵を立体的に表現しています。
「工房を立ち上げて半年後、山口発のジーンズブランド
『匠山池』のメンバーとしてプロジェクトに参加させて
もらいました。ジーンズにサンドブラスト加工を施す
という業界初の試みでしたが、試行錯誤を繰り返して、完
成にこぎつけることができました」
その後も既成概念にとらわれず、さまざまな分野の
作家との出会いによって自らの表現を広げていった小
山さん。その努力が実り、2012年2月にはガラス
を用いた作品で「第4回やまぐちACS賞」を受賞し
ました。
「アートの分野で評価された、しかも市民の皆さんが選
んでくださったというのはとても嬉しかったですね」
小山さんは、作品の製造販売だけでなく、自らの技術
を広く提供し、日本のものづくりを応援しています。
工房には、作家やメーカーの人をはじめ、近所の小学生
や女子高生など、幅広い職種や年齢の人々が集まって
きます。「見る人のリアクションは重要。作品づくり
のヒントになることもあります。女子高生に鋭い指摘
をされて、落ち込むこともありますが、大丈夫」
今後の目標を聞くと「さまざまな分野の人とコラボ
レーションして、誰も見たことのないような面白い作
品を作ってみたい」と楽しそうに話してくれた小山さ
ん。この先どんな作品が生まれていくのか、とても楽
しみです。

小さいころからものづくりが好きだったという佐伯
さんが彫金と出会ったのは、デザインを学んでいた大
学時代。スズの合金を使って卒業制作に取り組んだの
がきっかけでした。「その後も趣味で続けるうちに彫
金の面白さにどんどんハマっていききました」
山口に帰郷後は、委託販売や個展などを行いつつ、
彫金作家としての活動をスタート。そして2006
年、ついに念願のアトリエ兼ショールームを一の坂川
近くにオープンしました。
「もともと生まれ育った街なので安心感がありました。
人とのつながりが増えたことも大きな要因でしたね」
2009年からは駅通りにアトリエ兼ショールーム
を移し、作品づくりに励んでいる佐伯さん。何より楽
しいのは、受け取った人の喜ぶ顔を想像しながら作っ
ているときなのだとか。贈り手や使い手といった人と
の接点を常に意識しているようです。
一つひとつ手作りされたオリジナルアークセサリー
は、繊細で可愛らしく、やわらかな雰囲気印象的。店
内に並べられたリングやネックレスなどを眺めるだけ
でも、ほんわりと優しい気持ちに浸れます。
「ここで作品を手にとってこの南天、よく見ると可愛
らしいでしょ」と佐伯さん。彼の手にかかると、誰も見
向きもしない枯れ枝にさえ新しい命が吹き込まれてし
まうから不思議です。
2011年には真ちゅうやドライフラワーを使っ
た作品で「第3回やまぐちACS賞」を受賞し、地域に
根付いた作家として広く知られるようになった佐伯
さん。「人とつながることが楽しい」との思いから、彫
金教室のほか、ワークショップや出張講座も積極的に
行っています。
「いろんな人と出会い、つながることで、視点や視野を
広げ、枠にとらわれない作品づくりを心掛けています。
今後またたくさんの人に足を運んでいただけるように、
さらに魅力的な店にしていきたいですね」



独自のセンスと ユーモアが溢れる 魅惑のからくりワールド。

オートマタ作家
原田 和明 さん (38歳)
Harada Kazuaki

ブタやダンベルでトレーニングする「EXERCISE」。左は初期の作品。見た目も動きも常に改良し続けている



二象舎
山口市秋穂東7737
083-984-2072
[URL]http://nizo.jp/



あの手この手で見ると人を驚かせたいと、常にアイデアの歯車が頭の中を回っている和明さん。

Information ギャラリー&カフェと 手作り教室

引っ越しに伴い、現在ギャラリー&カフェは休業中です。新店舗のオープンは初夏の予定。新店舗では、手作りのオートマタの教室も実施予定とのこと。詳しくはHPでご確認ください。



「フラジャイル・オルガン」は、古い足踏みオルガンにオートマタを組み合わせた楽しい作品。



ハンドルを回すと何が起こるのか...そのワクワク感がたまらない。メカニカルな構造に大人も魅了されるはず。



妻のめぐみさんは色付けを担当。小学校からの同級生という息のびったり合った2人の会話も楽しい。



手間と時間を惜しまず 長く大切に使える家具を つくりたい。

家具職人
平川 和明 さん (33歳)
Hirakawa Kazuaki



LB FURNITURE WORKS
山口市大殿大路133-2
083-924-6607
土曜・日曜・祝日
11:00~18:00



[URL]http://www.lb-furniture.com/

「今では着るものや食べるものなど暮らしを楽しむゆとりもでてきた」と話してくれた平川さん。その飾らない人柄も魅力。

Information 木工体験教室

定期的には行っていませんが、「木の時計づくり」など木を使った簡単な木工製作の体験教室を山口アーツ&クラフツなどのイベント会場でも実施することもあり。初心者でも完成まで一から指導するので気軽にご参加を、とのこと。



平川さんが手掛ける家具からは、手間と時間を惜しまない丁寧な仕事ぶりがうかがえる。



風情ある町並みに溶け込んだ外観。平成16年度の町屋再生事業で改修された町屋を利用している。



プレゼントに最適な木工雑貨も充実。

オートマタとは、西洋のからくり人形のこと。ハンドルを回すとカタカタと歯車が動き出し、一つひとつの部品に力が伝わって人形が動き出します。原田和明さんがオートマタと出合ったのは27歳のとき。友人からオートマタの本を勧められ、見様見まねで作りはじめたのがきっかけでした。「それまでいろいろな趣味に手を出してきましたが、どれも長続きせず。でも、オートマタだけは別でした」。その魅力にどんどん引き込まれていった和明さん。しばらくは会社勤めをしながら独学で作品づくりに励んでいましたが、本格的にオートマタを学ぶため、2006年にイギリスの美術系大学院に留学。授業が休みの日にはオートマタ界の巨匠として知られるマツト・スミス氏のもとで学び、腕に磨きをかけました。帰国後、山口市秋穂に工房を構え、妻のめぐみさんと創作活動に専念していた2009年、記念すべき「第1回やまぐちACS賞」を受賞します。「受賞を記念した展示会は、連日来場者が会場を埋め尽くす盛況ぶり。予想をはるかに上回る注文に驚きました」。これをきっかけに作家としての自信をつけた和明さん。「オートマタの魅力をもっと多くの人に伝えたい」との思いから、全国各地で作品展を開催し、独自の世界を表現し続けています。彼が生み出す作品は、ユーモラスでシニール。茶目っ気たっぷりのトークで場を和ませる、彼の人柄そのものがにじみ出ているようです。仕掛けの楽しさだけでなく、木の質感や温もりを生かした丁寧で繊細な手仕事にも心が奪われます。昨年は週末限定のギャラリーカフェをオープンし、さまざまな人と知り合う機会が増えたという原田さん夫妻。縁がきっかけ、今年夏には山口市堅小路に店舗を移転し、体験工房も併設する予定なのだとか。オートマタのようにクルクル回る展開に、今後も目が離せません。

山口県立大学でプロダクトデザインを学ぶうちに、ものづくりへの興味が増していったという平川さん。卒業後は大学院へ進み、その間2年間、フィンランドで家具づくりを学びました。「シンブルで飽きのこない北欧のデザインにひかれました。実際に家具を作りながら技術を学び、とても内容の濃い2年間を過ごしました」。帰国後、平川さんは、昼は木工所で働きながら、夜間は大学院に通い、さらに技術を磨いていきました。そして2005年、大学時代の同級生である溝内健吾さんと意気投合して「LB FURNITURE WORKS」を設立。本格的に無垢材を使った家具づくりをスタートさせました。起業して4年目、ようやく軌道に乗り始めたころ、「第1回やまぐち新進アーティスト大賞」に応募。丁寧な作品づくりと将来性が評価され、見事大賞に輝きました。「精神的にも金銭的にもまだゆとりがない時期だったので、受賞は自分への褒め言葉だと思いました。市が主催した展示会には、想像以上にたくさんの方が来てくださって、とてもうれしかったですね」。現在、大殿大路に店舗を、宮野下に工房を構える平川さん。オリジナル&オーダー家具の受注生産、家具のリメイクも行っています。木のもつ自然な色合いを生かして、一つひとつ丁寧に作られた家具は、使うほどに味わいを増していくのが魅力。「納品したら終わりではなく、メンテナンスなどその後のお付き合いも大切にしていきたい」という言葉からは、ものづくりに対する誠実な姿勢が伝わってきます。今後の目標を聞くと「まずは商品のボリュームを増やすこと。県内はもちろん、県外の方にも来店していただけるよう、店自体も改良したい。やりたいことが多すぎて、いくら時間があっても足りないですね笑」とのこと。平川さんの家具づくり、これからの展開が楽しみです。

新山口駅表口周辺エリアMAP



山口市街地エリア
イラストMAP



香山公園前観光案内所
☎083-934-6630
🕒9:00~18:00
📅年中無休

瑠璃光寺五重塔
香山公園
洞春寺

雲谷庵跡



常栄寺庭園
雪舟庭・南溟庭
(p.1~4)

一の坂川の桜並木
3月下旬から4月上旬にかけて約200本のソメイヨシノが一斉に開花!夜間はライトアップされるので夜桜鑑賞も。

ほたる観賞week!
毎年5月下旬~6月上旬、国の天然記念物「ゲンジボタル」が飛び交う姿が楽しめます。

レンタサイクル
このエリアの観光や移動にはレンタサイクルが便利!貸し出し箇所は5カ所。このうち「C・S赤れんが」「山口ふるさと伝承総合センター」「山口市菜香亭」で普通自転車を借りた場合は、3施設どこでも返却OKです!!



三隅勝栄堂 (p.26)

山口市菜香亭 (p.26)

八坂神社 (p.8)

大内氏館跡
龍福寺

堅小路

大殿大路

十朋亭

大路ロビー (p.6)

LB FURNITURE WORKS (p.16)

山口情報芸術センター
[LYCAM] (p.7, p.9~12)

二象舎
(2013年夏頃からの予定)
(p.17)

204

ko SILVER (p.15)

特産品ショップ
やまぐちさん (p.27)

山口七夕ちようちんまつり
(p.8)

商店街アーケード

山口観光案内所
☎083-933-0090
🕒9:00~18:00
📅年中無休

楽しく歩いて 巡れるまちを創ろう

山口市では、史跡や古い町並みが残る一の坂川や堅小路一帯のエリアで、観光スポットを整備したりさまざまなイベントを催して、訪れた人が楽しく歩いて巡れるまちづくりを進めています。こうしたまちづくりの取り組みには、そこに住む地域の方々などの協力が欠かせません。

前ページで紹介のオートマタ作家・原田さんがこのエリアにアトリエを移転することになったのも、そうした地域の方々の協力がうまく実を結んだ事例のひとつです。

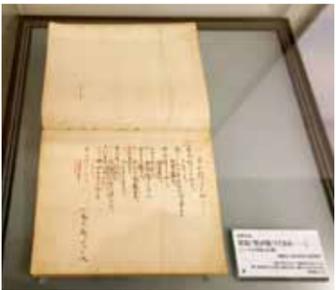
移転先を探していた原田さんに、「街なかで人の行き来も多い一の坂川近くにアトリエを構えませんか?」と空き家の提供を申し出たのは、近くで建設会社を営む村上知章さん。

アトリエができたら、原田さんの作品目当てにここを訪れる人が増えるのではないかと思います。訪れる人が増えてまちが元気になることは、私たち地元企業にとってもありがたいです!

そう語る村上さんを含めさまざまな人たちの協力があり、やがて原田さんのこの地への移転は本決まりに。そして、「空き家を活かした次の企画もすでに動き始めています」と村上さん。

地域のもつ歴史的・文化的な価値に加え、こうした協力やまちの人たちの思いが、このエリアの新たな魅力を創り出し、楽しく歩いて巡れるまちづくりの土台を支えています。





中原中也記念館

これが私の故里だ

やさしいことばで自分の中にある悲しみや憂鬱をうたった詩人、中原中也は山口市湯田温泉生まれ。生家跡地に建つ「中原中也記念館」は来年開館20周年を迎えます。繁華街にあるのに一歩踏み入ると違う風が吹いてくるような「中原中也記念館」で中也と向き合ってみませんか。



帽子とマントがトレードマーク。中也のふるさとで詩に出会う

実は中也の帽子

中原中也は明治40年(1907)4月29日に山口市湯田温泉で生まれました。「中原中也記念館」は平成6年(1994)、その生家跡に建てられたもので、建物は中也愛用の帽子をモチーフにしたユニークな形をしています。設計は全国公開設計競技で最優秀賞に選ばれた宮崎浩氏。コンクリート打ちっぱなしの外観は一見無機質ですが、外の風景や柔らかな光を取り入れたり、吹き抜けによって広がりや奥行きを感じられるようになっていたり、回遊性を持った空間構成で繰り返し中也と出会うような造りとなっています。平成10年(1998)には公共建築百選にも選ばれました。

20周年に向けてお色直し

館内は常設固定展示、常設テーマ展示、企画展示の三部構成。それぞれのコーナーで中也の草稿、日記、手紙などの資料が公開されています。

ます。常設テーマ展示は1年ごと、企画展示は2ヶ月から3ヶ月といった期間で展示替えが行われて、新しい切り口での中也の世界にふれることができるようになっています。

館は開館20周年を前に改修工事が行われる関係で今年11月1日から来年2月中旬まで休館。それに伴い、常設テーマ展示「中也のうた」は期間が短くなりますのでイベントカレンダー等でご確認のうえ、お見逃しなきよう。来年2月のリニューアルオープンと同時に始まる常設テーマ展示「恋愛詩」展や企画展「中原中也記念館の20年」(仮)も準備が進んでいるそうです。乞うご期待！

心情を詩にしてみたくなる？!

オリジナルのミュージアムグッズも楽しみのひとつ。ポストカードやブックマーク、クリアファイルなどは中也ファンにはうれしい限り。春からはポストカード、一筆せんが20周年を前にリニューアルして登場です。「小年時」と名付けられたノートを広げれば中也の詩がうかんでくるかもしれません。中也関連の書籍やCD、「中原中也の会」が編集している「中原中也研究」も並んでいます。20周年記念グッズも企画中とのことですので楽しみに。



詩ってオモシロイ

記念館では展示ばかりでなく、月に1回の「中原中也を読む会」をはじめ、生誕祭や朗読会、公開講演などイベントも積極的に実施しています。毎年4月29日に開催される中原中也生誕祭では、記念館前庭で、空の下の朗読会が開催されます。また同日には、新鮮な感覚を備えた優れた現代詩の詩集に対して贈られる「中原中也賞」の贈呈式(山口市主催)も行われます。中也の詩は抒情的でロマンティック。平易なことばの奥に見え隠れする悲しみやさびしさや人の心を魅了します。記念館では中也の作品世界をさらに深く研究し、その魅力を広めていくことと同時に、詩、ことばという表現方法の魅力をもっと伝えていきたいと、20周年を機に学校などへの出前講座や教材制作などさまざまな企画を検討中。進化する中原中也記念館、要チェック！

そしてぜひ実際に訪れて、中也のことば、詩の世界にふれてみてください。読んだり朗読したり、朗読を聞いたり、作ってみたり。自分ごとば、表現方法が見つかるかもしれません。

「あ、おまへはなにをして来たのだ」と中也に聞かれたら、さあ、なんと答えましょうか。





中原中也記念館
 山口市湯田温泉一丁目11番21号
 ☎083-932-6430 FAX083-932-6431
 URL http://www.chuyakan.jp/

■開館時間 / 5~10月 9:00~18:00 (入館は17:30まで)
 11~4月 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

■休館日 / 月曜日(祝祭日の場合はその翌日)、
 毎月最終火曜日(変更となる場合あり)
 年末年始、その他展示替え期間
 ※改修工事に伴い、11月1日から平成26年2月15日まで休館

■入館料 / 一般310円(262円)、大学生210円(157円)、
 小中高校生150円(105円)、70歳以上は無料
 ※()内は20人以上の団体

■交通アクセス
 ・JR新幹線「新山口駅」からJR山口線「湯田温泉駅」下車、徒歩10分
 ・JR新幹線「新山口駅」からバス約20分、「湯田温泉」下車、徒歩1分
 ・山口宇部空港から山口市内・湯田温泉行きバス約45分、「湯田温泉」下車、徒歩1分





神様も、演者も観客も一緒に楽しむ

い わ み か ぐ ら

石見神楽

山口のおとなり
津和野の魅力

ストーリーは神話。語り口は古文調。

でも次第に高まる笛の音と激しいビート、豪華な衣装、華麗な立ち回りが見るものをとらえて離さないジャパニーズ・ローカル・クラシック・エンターテイメント。山口のおとなり<石見>で石見神楽の熱い魅力に酔いしれてみませんか。

鮮やかな立ち回りに 拍手喝さい！

雅やかに、時には空気を切り裂くように、軽やかに歌う笛。大太鼓、小太鼓、手打ちの鉦がビートを刻みます。お囃子の音に乗って絢爛な衣装をまとったスサノオノミコトと長い大蛇が格闘するクライマックスシーンになるとテンポはどんどん速くなり、観客も息を飲んで見守ります。スサノオノミコトが太刀をふるって大蛇を見事打ち取ると思わず拍手が。

石見神楽の人気演目「大蛇」。出雲神話の中でも特に有名なヤマタノオロチ退治を題材にした代表的な演目で、石見地方での上演プログラムにはほとんど組まれています。神話を知らなくても、ツノのはえた頭をふり、全長18mにもなる長い胴を巧みに操り、とぐろを巻いたり鎌首をもたげたり、口から火や煙を吐いたり、複数がからんだりする大蛇のパフォーマンスはおおいに楽しめます。この長い胴は石州和紙と竹でできているのだそうです。派手な彩色も舞台を盛り上げています。

みんなで一緒に楽しむ！

石見神楽は島根県西部(石見地方)の伝統芸能。起源は近世以前、田楽系の大元神楽をベースに出雲流神楽や能・狂言・歌舞伎などもその形成に影響したとされています。広島県北西部にも伝わり、独自の姿容を遂げて地元に着していています。本来は一年の無事と収穫の感謝を捧げるために氏神様に奉納されていたもので、石見地方では秋になるとあちこちの神社で夜を徹して神楽奉納が行われます。軽快で激しい囃子(リズム)と舞が特徴で、神話などをものにしたストーリーがあり、娯楽性が高いので



地元では子どもからお年寄りまで幅広い人気を誇っています。民俗芸能の継承者というとお年寄りか小学生、といったイメージがありますが、石見神楽では面を取ったら金髪・細眉のイマドキのお兄ちゃんだったり。都会に出ても神楽をしたがために帰ってくるという人もいますし、「社中(保存会や神楽団など)」に入って親子3代で舞っている家も多いそうです。現在は秋祭りでの奉納だけでなく、常設の舞台上演や社中が集まった際の競演なども盛ん。社中によって得意演目や細かい演出などに違いがあり、見分けることができるようになりますと見巧者と呼ばれるようになるのだとか。

職人がつくる神楽面は演舞用としてだけでなく魔除けとして飾るため新築祝いや開業祝いに送る風習もあるそうです。

石見の土地に、暮らして根づいている石見神楽は石見人なら血が騒ぐ、石見人の誇る郷土芸能です。

その石見の国は山口のおとなり。ちょっと足をのばして八石見神楽体験、おすすめです。津和野町では、道の駅津和野温泉なごみの里で月に2回定期公演を行っています。そのほか、大田市、江津市、浜田市、益田市などでは一年中楽しめます。



毎年ゴールデンウィーク期間中に1日だけ、津和野町内の社中による屋外公演があります(雨天の場合は屋内に変更)。広々とした屋外で行われる神楽は、またひと味ちがう趣きがあり、面白いです。

石見神楽入門

奉納神楽を鑑賞する時は…

石見地方各地の神社では、夏から秋にかけて神楽が奉納されます。奉納神楽のときは作法があつて、これを知っていると、場になじむのが少しスムーズに?!

- 一、神様を敬う心を伝えるべからず。まず拝礼を。
- 一、地元のひとなかよくしましょう。
- 一、御花おんはなを打つ。
- 一、いわゆるおひねり。祝儀袋に3000円程度入れて奥座敷に渡すと健康多幸を祈願してもらえます。
- 一、防寒対策をしっかりと。
- 一、リラックスして楽しみましょう。
- 一、リラックスして楽しみましょう。
- 一、リラックスして楽しみましょう。
- 一、リラックスして楽しみましょう。

道の駅 津和野温泉なごみの里 定期公演

津和野町に拠点を置く社中をはじめ、町内外の各社中の舞台を楽しむことができます。まずは舞台の興奮を体感してください!! 観覧無料です。

■開催日時/第1・第3日曜日
11:00と14:00の2回公演

📍道の駅「津和野温泉 なごみの里」
☎0856-72-4122



石見神楽&津和野町の観光に関するお問い合わせは...

■津和野町商工観光課 ☎0856-72-0652
■津和野町観光協会 ☎0856-72-1771



湯田温泉観光案内所前の足湯には、併設で飲泉場もありおなから楽しめます。



湯の町通りの足湯には更衣室があるのでタイツやストッキングを着用している女性でも足湯が楽しめます。



ほか女度 10%

足湯であつたまる

[湯田温泉・足湯]

旅の初めにまずは冷えきっている足先からあたためよう。

湯田温泉には、無料で利用できる足湯が6カ所あります。タオル一つあれば、気軽に楽しむことができます。足先をあたためると全身がポカポカしてくるし、リラックス効果もあるとか?!街中に温泉のある山口ならではの“あつたかなお楽しみ”です。地元の人との交流も旅の楽しみの一つ。心もあつたまるヨ!

Plan 1



③ 山口市湯田温泉エリア内6カ所
④ 利用時間は施設によって異なるので、詳細はホームページやパンフレットでご確認ください。
⑤ 無料
[URL] http://yamaguchi-city.jp/details/af_ashiyu.html



「森の案内人」さんのガイドを聞きながら歩いてく。歩くことで血行がよくなって、全身がほかほかに。



森の中や湖のそばにはマイナスイオンがいっぱい!! ストレスから開放されてリラックスできます。



ほか女度 40%

森林セラピーであつたまる

[森林セラピー基地山口]

ウォーキングで下半身をあたためて冷えを解消! ストレスを和らげ、森の癒しの力で心もあたためよう

徳地エリアにある“森林セラピー基地”。メインとなるセラピーロードは高低差が少ないフラットな道で、老若男女幅広く森林ウォーキングが楽しめます。また、大原湖周辺では多くの野鳥が集まって、来る人を出迎えてくれます。森や湖の景色、かわいい野鳥たちに癒されること間違いなし!!

Plan 2



③ 山口市徳地 ☎0835-52-1122
④ 森の案内人1人につき(半日) 2,000円(全日) 3,000円 料金、実施日、イベント情報お申し込み方法等、詳細はホームページ等で確認ください。
[URL] <http://www.shinrin-therapy-yamaguchi.jp/>



仁保産のお米や野菜をつかった「雷豆腐定食」870円。メインの雷豆腐は地元・仁保で作られたもの。ふわふわでケーキみたい。雷豆腐はお店で買ってもOKです。



地元産の牛乳を使った濃厚なソフトクリームもこの店の人気商品だそう。バナナ味と季節ごとに変わる果物味が人気。



ほか女度 60%

地産地消であつたまる

[道の駅 仁保の郷&レストラン すこやか工房にほのさんぽ]

地元のものを使ったあたたかい食事を食べて、おなかが満たしてあつたまる

地元・仁保産の豊かな農産物が集まる「彩り市」をはじめ、県内各地の特産品がズラリと並び道の駅。「すこやか工房にほのさんぽ」は、仁保産の農産物を中心に自然の食材にこだわったレストラン。豆腐やそばをいれた和風創作料理が人気です。地元のものをつかった地産地消料理でお客さんも地元の人もポカポカに!!

Plan 3



③ 山口市仁保郷1034 ☎083-929-0900 レストラン 083-929-0480 道の駅
④ レストラン9:00~18:30
⑤ 毎週水曜日、12/31~1/2
[URL] <http://www.nihonosato.com/>

山口市の観光の魅力を
山大学生がナビゲート!!

めざせ♪

ぽっかぽか女ツアー!

皆さん、ご存知ですか? 20代の女性の「秋・冬の悩み」のナンバー1は、なんと「冷え」なんだそうです。最近の「生姜ブーム」もそんなところからきているみたい…。実は、私たちの住む山口市にはそんな女性の悩み「冷え」を解消できる、心も体もあたたまる観光スポットがた〜くさんあるんです!!
そこで、山口で楽しみながら「脱! 冷え女 めざせ♪ ぽか女」をコンセプトに日帰りのプランを作っちゃいました。
“ぽか女”になるためには、「運動」「あたたかい食事」「入浴」「リラックス」「感動体験」がマスト・アイテム?! そんな「心地よく、美味しく、楽しく、あつたまるツアー」をご案内します。



ぽか女とは…

- ・プラス思考
- ・寒さを気にせず何でもできる。
- ・気持ちにゆとりができる。
- ・肌の色艶がいい。表情が明るい。
- ・体温が高い。手足があたたかい。



冷え女とは…

- ・マイナス思考
- ・寒くて何も手につかない。
- ・気持ちに余裕がない。
- ・顔色が悪い。表情が暗い。
- ・体温が低い。手足が冷たい。
- ・眠れない。集中できない。
- ・疲れやすい。やる気が出ない。

タイムスケジュール案



ぽか女度あげちゃいます!



プラン提案者/藤田健ゼミ「チーム M&A」の皆さん

※取材協力/山口大学経済学部経営学科藤田健ゼミ
※この記事は、山口大学経済学部経営学科藤田健ゼミが平成 24 年度山口大学戦略経費「教育・研究活動活性化経費」の支援を受けて実施した「地域観光マーケティング演習」で最優秀賞を受賞した企画、チームM&Aの「めざせ♪ぽか女ツアー!」をもとにアレンジを加えて作成しています。

お土産買って帰りを待ってる人の
喜ぶ顔を想像してあたたまろう!

Plan 5

ほか女度
100%

お土産を買って
“あったかい思い出”
を持ち帰る

[特産品ショップやまぐちさん]



山口市はもちろん県内のさまざまな
名産品・特産品が揃うショップ。中心
商店街内において採れたての山口産
農産物の「産直市」も開催されている
ので地元市民にも愛されています。コ
コでお土産買って、“あったかな山口
の旅の思い出”を持ち帰りましょ!!



◎山口市道場前1-3-16 ☎083-934-9120 FAX)083-934-9122
◎10:00~18:00 休第1水曜日
◎URL http://www.yamaguchi-machinaka.com/

Plan 6

最後に足湯につかって
ほか女度 120%!

旅の終わりに足先を
あたためて疲れをとって
リラックスしよう!!

ほか女度
120%

ほかにもアリマス。
ほかほか体験!!

石風呂体験会

[山口徳地青少年自然の家(要予約)]

室の中で薪を燃やして石をあたため、燃え
かすを取り出した後に衣服のままに入る日本
式のサウナ。東大寺の再建のために徳地
で材木を切り出していた俊乗房重源上人
が作ったと伝えられています。通常は数千
円以上かかる石風呂が超おトクな金額で
体験できるこの会は、見逃せませんよ!!



- 開催日/毎年11月~3月にかけて10回程度開催しています。
詳細については、ホームページで確認するか直接電話でお問い合わせください。
- 準備するもの/タオル、着替え(下着も)、綿製品で汚れてもいい長袖・長ズボン、洗面用具、水分補給のための飲料など。※体験後、シャワールームや浴場が使用でき、汗が洗い流せます。

◎山口市徳地船路668
◎0835-56-0113 国立山口徳地青少年自然の家(事業推進係)
◎13:00~15:00(受付開始12:00~) 料100円 Pあり
◎URL http://tokuji.niye.go.jp/

体験観光は、ツアー時間や好みに合わせて選んで、ほか女度UPしちゃおう♪

Plan 4

ほか女度
80%

とんぼ玉
制作体験で
あったまる

[いだガラス工房(要予約)]

マンツーマンで指導して
いただけるので、全くの初心者
でも安心して体験できます。



ガラスが冷えるまでの1時間、工房の隣の
ギャラリーでお茶のサービスが。カワイイ
作品を見ながらおしゃべりしていると1
時間もあっという間です。



市街地からちょっと足を伸ばし
た、自然豊かな郊外にあるガラ
ス工房。鉄棒の先に付けたガラ
スを炙りながらトンボ玉をつ
くっていくので“あたたまる”こ
とはお墨付き。



- 所用時間/とんぼ玉製作は約30分。
※とんぼ玉を当日持って帰る場合は、その後ガラスが冷えるまで約
1時間の待ち時間が必要です。当日受け取れない場合は、後で発送
してもらうことも可(発送費実費)。
- ◎山口市桜島6-22-6 ☎083-924-6228
- ◎定休日を除く10:00~17:00
- ◎火曜(祭日は営業) ※第1・3土曜の午前中は教室があるため制作体験が出来ません。
- ◎1個1,500円、2個2,800円、3個3,500円
※中学生までは10%OFF。3~5人まで同時体験可。申込は1人から可。
- ◎Pあり
◎URL http://iidaglass.com

蒸し終わりに湯気とともに
よい香りが漂ってきて幸せ感UP!!



国産の「わらび粉」、四国産の「和三盆」と
北海道産の「小豆餡」、高級和菓子用の素材
を用いて作るので美味しさもとびきり。



- 所用時間/30分程度
- ◎山口市上野小路90 ☎083-922-1026
- ◎9:00~19:00 ※日曜のみ9:00~17:00
- ◎年中無休 料750円
- ◎Pあり
◎URL http://www.misumi-shoeido.com/

ほか女度
80%

外郎づくり
体験で
あったまる

[三隅勝栄堂(要予約)]

お店オリジナルの手作り外郎
キットが揃っていて、わずか30
分程度で手軽に体験することが
できます。出来たてのぷるぷるの
外郎の味わいは、まさに絶品!!
外郎を蒸す蒸気で身体があっ
たまり&美味しい外郎を食べて
心もポカポカに。



ほか女度
80%

お茶を飲んで
あったまる

[中国茶館 茶室]

お茶1袋で、最低でも3杯は
お代わりが楽しめるのもウレシイ。



中国茶はその豊かな
香りも楽しみのうち。
お湯を注いで暫く蒸
らした後、茶器の蓋
をとって香りを楽し
みます。



- ◎山口市中河原町2-15
- ◎083-920-6401
- ◎10:00~18:00 ※日・祝日は~17:00
- ◎休第4・5日曜
- ◎中国茶500円~、ランチ各850円~
- ◎Pあり(店舗裏)
- ◎URL http://chaza.soreccha.jp/

「楽茶」はお店で購入もできます。
「生姜ブレンド」「果実ブレンド」
各1袋350円



ほか女度
80%

着物レンタル・
着付けサービスで
あったまる

[山口市菜香亭(要予約)]

着物、帯は何種類か用意されていて、
お好みのものが選べます。



着付けてくださるのは「山口
の街並を着物で歩こう会」の
女性たち。鮮やかなプロの
手技で手際よく着崩れしな
いよう上手に着付けてくださ
るので安心。



着物から簡単な髪セットまで
おまかせ!何の準備がなくて
も、旅先で身体ひとつで気軽に
着物体験ができます。着物って
重ね着して帯を締めるので冬向
きで?!意外にあたたかいんで
す!!肌寒い秋&冬には着物姿で
の“西の京やまぐち散策”がオス
スメ。身体ポカポカでちょっと
したモデル気分も味わえます!!

- 着付け時間/約30分。簡単な髪セットも含めると1時間弱
かかります。
- ◎山口市天花1丁目2番7号
- ◎083-934-3312 山口市菜香亭
- ◎9:00~17:00
- ◎火曜(祝日の場合は翌日)・年末年始(12/29~1/3)
- ◎2時間未満2,500円、2時間以上3,500円(※着物レンタルおよび着付け料)
※前日までに山口市菜香亭に要予約
- ◎Pあり
◎URL http://www.c-able.ne.jp/~saikou/
◎URL http://ojilobby.sblo.jp/ [大路ロビーおさんぽMAP] 検索





このハガキで「彩都山口」プレゼントクイズにご応募いただけます。

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、右のクイズの答え、アンケートの回答をご記入の上、お送りください。正解者の中から抽選で10名様に山口市の特産品詰合せをプレゼントします。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

クイズの答え

「彩都山口」の感想をお寄せください。

皆様のご意見を今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

Q1 「彩都山口」をどこで入手されましたか？

1. 郵送で 2. 市役所や公民館等の公共施設で 3. 駅や観光案内所で
4. 道の駅や特産品販売所などで 5. ホテルや旅館等の宿泊施設で
6. 美容院や飲食店などのお店で 7. その他【具体的に：】

Q2 どの記事が面白かったですか？

1. 巻頭特集・渡辺おさむ氏インタビュー
2. 山口のまち歩き。アート・イベントもやっています！
3. アートって楽しい!! YCAMの教育普及事業
4. やまぐちのつくりびと 5. 中原中也記念館特集
6. 石見神楽特集 7. めざせ♪ぼっかばか女ツアー！
8. その他【具体的に：】

Q3 山口市のどんなところに興味がありますか？

1. 歴史 2. 自然 3. 芸術・文化 4. 温泉
5. グルメ 6. その他【具体的に：】

Q4 山口市の中でどこか訪ねてみたい所がありますか？

訪ねてみたい理由があれば、それも教えてください。

場所【

理由【

Q5 今後、どんなテーマの記事を読みたいですか？

編集後記

1年ぶりの「彩都山口」です。今号のメインテーマは、「Art&Culture」。人、イベント、施設etc.・・・山口に暮らす人たちの「まち」への思いがほんわか伝わってくるような身近なものから、世界的(?)に注目を集めているものまで、芸術&文化に関連した「山口の宝モノ」を幅広いコンテンツでご紹介しています。「でも、芸術・文化ってなんだか小難しそう・・・」ですって?いえいえ、大丈夫です。今回ご紹介したコンテンツはそのいずれもが「構えず」「気張らず」「気軽に楽しんでもらうだけでもOK」と、来訪者全てをウェルカムな感じで迎えてくれます。そんな間口広々のArt&Cultureをテーマに巡る「山口探検」、オススメです。

発行 / 2013年3月
山口市総合政策部企画経営課
〒753-8650 山口市亀山町 2-1
tel.083-934-2728
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>

Staff

制作統括 株式会社コア
Editor in Chief 矢原玲子
Art Director 松本恵子
Writer 村上郁子・小野理枝・平川由野
Illustration 山寺わか
Photograph 蔵澄秀昭・平田直樹

取材協力

島根県鹿足郡津和野町
山口大学経済学部経営学科藤田健ゼミ
山口市の皆さま

©本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

プレゼントクイズ

クイズ正解者の中から抽選で10名様に、山口市の特産品詰め合わせをプレゼントします!! ふるってご応募ください。

Q 巻頭特集の渡辺おさむ氏が「Karesansui 枯山水」の作品展を行った、今年開館10周年を迎える山口市中園町にある施設はどこでしょう?

- ①山口情報芸術センター【YCAM】
②中原中也記念館 ③常栄寺雪舟庭

●応募方法

左にある応募ハガキを切り離し、必要事項をご記入の上、お送りください。

●応募締切

第1次 / 平成 25年 9月 30日 (月)
第2次 / 平成 26年 1月 31日 (金)
※当日消印有効

【個人情報利用の目的】

ご応募いただいた際の個人情報は、誌面づくりの参考とプレゼント賞品の発送のみに使用致します。



山口のニッチな情報
ココにあります!!

「ytube」は、
山口市の地域映像・写真投稿共有サイトです。
会員(無料)になれば、スマートフォンやパソコンから簡単に
映像や写真が投稿できます。

- 運動会やクラブ活動
- サークルの作品の発表
- 地域のイベントの紹介
- 山口の特産品の紹介
- お店情報

等々、山口のニッチな情報を
発信&検索してみませんか

※「ytube」は、山口市と山口ケーブルビジョンが運営しています。



会員登録の方法など、
詳しくは、コチラ!

<http://www.ytube.jp>

をご覧ください!!

山口のぶちうまをご紹介!!

海に山に豊かな自然に恵まれた山口市には、美味しい特産品がたくさん。その中から、今注目の「ぶちうま」をいくつかご紹介しします。

柑橘鮎

食べると爽やかな柑橘の香りがする「柑橘鮎」。

山口大学農学部の赤壁善彦教授と榎野川漁業協同組合の共同開発で生まれた、ここ山口にしかない特産品です。山口のミカンや柑橘類から抽出した成分を餌に混ぜて育てられた鮎は、「口に含むと柑橘の香りがして川魚特有のかおりが気にならない」「内臓も苦味がない」と川魚が苦手な方からも高評価をいただいています。2012年春から本格的な販売がスタート。主に山口市内の飲食店や旅館などで提供されるほか、同漁協や市内の店舗、6月の第1日曜日に同漁協の養魚場で開催される「ふしの川あゆの日まつり」や9月開催の「ふしの川漁協まつり」などでも販売されます。

kanbutsu

地元の乾燥機メーカーの優れた技術を活用し、豊かな自然に恵まれた山口市の山の幸・海の幸で新しい特産品を創ろうという産学官の取り組みが実を結んだのが、2011年より販売が始まった山口生まれの「kanbutsu」。今までのラインナップは、「スイカ」「ナシ」「カイガラアマノリ」「モモ」「らっきょ」「リンゴ」のドライチップ、ゆずや果実・生姜の「ブレンド茶」等々。素材の色や香りをそのまま残し、ギュッと凝縮された美味しさがいずれも好評です。シーズンごとの少量生産で売り切れ次第、販売終了。山口市内の道の駅などで販売されるほかwebでも販売しています。

山口市役所かんぶつ部

検索

《お問合せ先》山口市経済産業部交流産業企画室 ☎083-934-2928

阿知須くりまる

山口市のブランド野菜として年々人気が高まってきている「阿知須くりまる」。人気の理由は、糖度13度から15度といわれるクリにも勝るその甘さ。濃厚な味わいやほっくりとした食感も好評で家庭料理から和・洋菓子の素材まで幅広く活用されています。出荷時期は7月から8月にかけて。「道の駅あじす」や県内のスーパーなどで販売されます。少量ながら12月頃にも出荷があります。店頭に並びとすぐに完売してしまうほどの人気です。見かけたら、ぜひ一度食べてみてください。

山口けんちょうマン

2012年秋に登場した「山口けんちょうマン」は、今一番新しい山口市の特産品。大根、人参、豆腐、しいたけ、れんこん、ごぼう、こんにゃくなどの野菜と鶏肉を小麦粉と米粉で作った皮で包んだ一口大のまんじゅうです。そもそもは山口の郷土料理「けんちょう」を多くの人に知ってもらいたいと、山口市物産事業者連絡協議会が実施した特産品アイデア募集で最優秀賞を受賞したのが始まり。受賞アイデアをもとに生産者や飲食、食育の関係者などが連携して開発。一部調味料を除き全て県産の食材を使った、安心安全で美味しい特産品として商品化されました。市内の道の駅やスーパーなどで販売されるほか、市内の学校給食や湯田温泉の飲食店などでも提供されています。

山口市を応援したいという皆さんの思いをカタチにしてみませんか。 ～ふるさとやまぐち寄付金～

「ふるさとやまぐちを想い、山口市の役に立ちたい」「山口市に関心があり、応援したい」とお寄せいただいた寄付金は、魅力と活力にあふれたまちづくりのために大切に活用していきます。皆様のご寄付が山口市の未来を創ります。ご支援・応援を心よりお待ちしております。

5,000円以上寄付していただいた方には、「ふるさとへの便り」として市の特産品の中からご希望のものを1点お届けします。「ふるさとへの便り」で山口市の魅力を体感し、山口市のPR協力隊になっていただけませんか?

平成23年度ふるさとやまぐち寄付金のお礼とご報告

平成23年度の寄付金は、8,648,110円(773件)になりました。多くのご支援や温かいメッセージをありがとうございました。皆様からいただいた貴重な寄付金は魅力あるまちづくりに向けて大切に活用させていただきます。

お問合せ先 / 山口市総合政策部企画経営課 ☎083-934-2746
e-mail kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

ふるさとやまぐち寄付金

検索



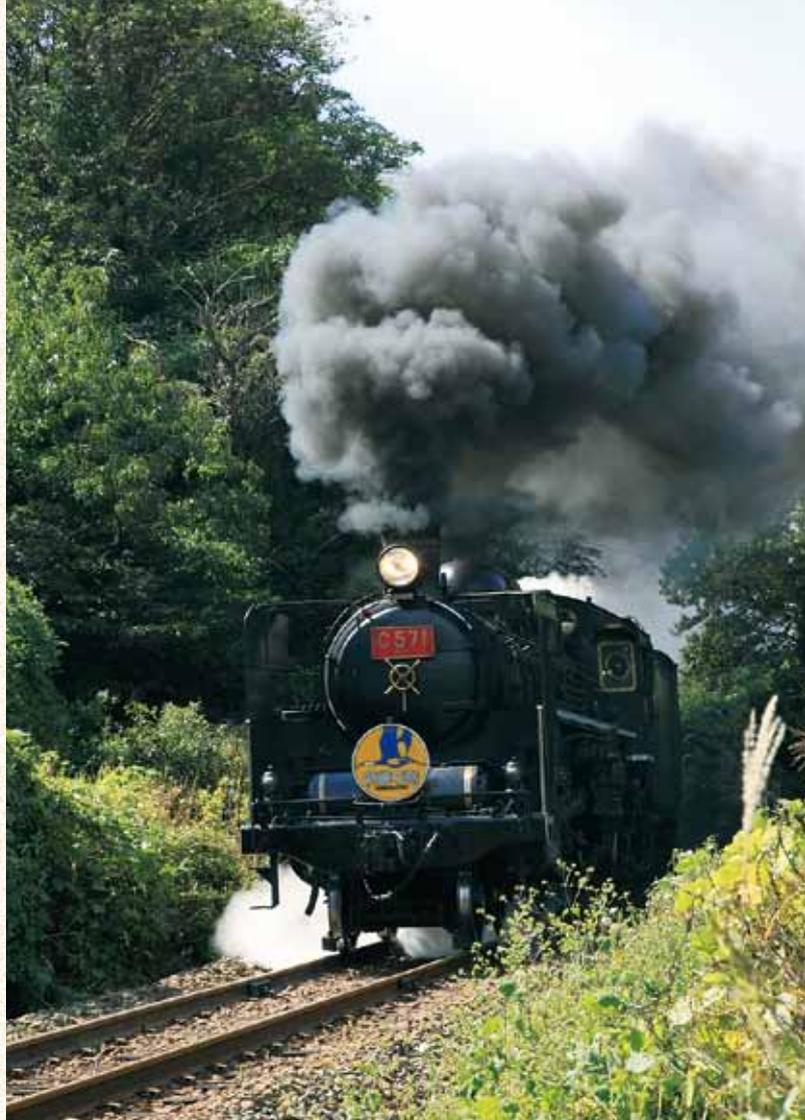
※ふるさと納税制度による寄付控除は、毎年受けられます。

山口線全線開通 90周年記念 SL「やまぐち」号ギャラリー

2013年3月下旬～8月下旬(予定)

場所 山口市菜香亭、大路ロビー、湯田温泉西村屋ほか

問合せ先 山口市経済産業部観光課 ☎083-934-2810



第18回 アートふる山口

2013年10月13日(日)・14日(祝)開催予定

場所 山口市後河原～豎小路一带

問合せ先 アートふる山口実行委員会事務局(大路ロビー内) ☎083-920-9220



POST CARD



料金受取人払郵便

7 5 3 8 7 9 0



差出有効期間
平成26年
3月31日
切手不要

山口市亀山町2-1

総合政策部 企画経営課

「彩都山口vol.5」プレゼント係 行



必要事項をご記入ください

ふりがな			年 齢	歳
お名前 (必須)			性 別	男・女
ご住所 (必須)	〒 -			
T E L (必須)	() -	F A X	() -	
ご職業				

※応募締切／●第1次／平成25年9月30日(月) 当日消印有効
●第2次／平成26年1月31日(金)